

*Development Centre Studies*

## The Visible Hand of China in Latin America

Summary in Japanese

開発センター調査

ラテンアメリカにおける中国の「見える手」

日本語要約

### 中国：ラテンアメリカにとって救いの手が

ハビエル・サンティーン

中国経済の活況は大きな世界的変化を表している。近年、中国経済は飛躍的に拡大し、新興市場にとって脅威になるとともにチャンスにもなっている。中国の原材料需要の伸びは、開発途上国に思いがけないチャンスをもたらすと同時に難題も突きつけている。

中国経済の活況は一次産品関連の資源賦存が豊富な国の輸出を押し上げるという思いがけない幸運をもたらす。しかし、中国の旺盛な原材料需要は、大半のラテンアメリカ諸国にとって名目でも実質でも為替レートの高騰につながっており、それが製造業の競争力低下をもたらしている。同時に、中国は労働集約型のローテク製品でも、そしてますます知識集約型のハイテク製品でも、主要な輸出国として存在感を増してきている。中国は、繊維から付加価値の高い工業製品に至るほぼ全ての業種で、大半の開発途上国、特にメキシコなどのグローバルな貿易大国に難題を突きつけている。

ラテンアメリカはこの新しいグローバルな経済国の興隆を恐れるべきなのだろうか。ラテンアメリカに対する中国経済の強み（規模、マクロ経済の安定、豊富な安い労働力、急拡大している物理的なインフラ、革新能力、高い投資率と貯蓄率など）を一つ一つ比較検討したエドゥアルド・ローラによる第1章のベースになっているのが、この問いである。これは、本報告書に寄稿している有力な国際機関や大学（米州開発銀行、アジア開発銀行、OECD 開発センター、スペイン中央銀行、チリ中央銀行、オックスフォード大学、さらに、ラテンアメリカでも主要な金融機関となっている欧州の有力銀行バンコ・ビルバオ・ビスカヤ・アル

ヘンタリア（BBVA）などの民間銀行）の他の全ての専門家や研究者によって提起されている中心的な問いでもある。

中国のラテンアメリカに対する貿易面の影響は、活発な輸出を通じて直接的にも、交易条件の改善を通じて間接的にも、ほとんどは好ましいものである。中国は、この地域からの一次産品の輸出先であるとともに、「貿易の天使」や「救いの手」のように見える。GDP が急増し、耕作地が乏しい中国の天然資源や農産物への需要はラテンアメリカにとって好材料となっているようである。2005 年の対ラテンアメリカ貿易・投資総額は 500 億ドルに上っており、中国はすでに主要なパートナーとなっている。

中国の世界の他の国・地域への貿易面の影響を分析するため、ブラスケス、ロドリゲス、サンティーツは第 2 章で中国の輸出入の構造に着目している。3 人は 620 品目に上るモノのデータベースを利用し、米国市場における 2 種類の貿易競争指数を作成し、34 カ国・地域（うち 15 カ国はラテンアメリカ諸国）に対する 1998～2004 年の中国の影響を分析した。これによれば、34 カ国・地域で最もこの指数が低い、したがって中国との貿易競争に最も苦しめられていないのはベネズエラ、ボリビア、チリである。ブラジル、コロンビア、ペルーは中間に位置している。米国で中国との競争に最もさらされているのは中米諸国とメキシコである。

サンジャヤ・ロールとジョン・ワイスも、中国とラテンアメリカの全世界（両者の主要市場である米国を含む）における輸出パフォーマンスと専門パターンを分析・比較した第 3 章で同様の結論に達している。2 人によれば、大半のラテンアメリカ諸国の貿易構造は、概して中国と競合的というよりは中国と補完的である。しかし、ロールとワイスも、第 2 章を寄稿した 3 人と同じように、中国はラテンアメリカにとって比類のない貿易上のチャンスであるとしても、ラテンアメリカの長期的な発展にとってやはり深刻な脅威になるかもしれないという点を強調している。資源製品への過度の依存は技術力の強化向上や多様化につながらない、ということである。第 4 章でロベス・コルドバその他が強調しているように、人民元の切り上げが行われればラテンアメリカ製品の米国市場における競争力は強まるだろう。この問題は今後も大きな構造的課題となる可能性が高い。

中国の興隆はラテンアメリカが目覚ますすりかけとなっている。メキシコのような国は競争力をめぐる争いに立ち遅れないよう改革を推進する必要性に迫られるだろう。労働コストが、少なくとも中期的に見れば、もはや競争優位をもたらさなくなることは明らかである。中国の挑戦に対処するには、特にインフラ分野の改革を推進した方がよいだろう。

メキシコや中米にとって、米国と隣接しているということは大いに活用すべき主要な戦略的資産である。この資産を活用する最善策は、取引コストや輸送コストを引き下げるために道路、港湾、鉄道、空港などの効率性を改善することである。

他のラテンアメリカ諸国にとって、中国は今後も貿易の天使となるだろう。主に原材料を輸出している国の方がさほど強い競争にさらされていないということは驚くにあたらない。中国が一次産品の純輸入国であることを考えれば、当然である。中国の 2003 年のニッケルの輸入は倍増し、銅の輸入は 15%、原油の輸入は 30%、大豆の輸入は 70%、それぞれ増加した。中国は銅、亜鉛、白金、鉄、鉄鋼の世界有数の消費国となっている。

大半のラテンアメリカ諸国はこのように輸出を急増させている。この地域の一次産品専門の輸出業者は、増加する中国の需要（大豆では世界輸出の 47%、銅

では世界輸出の 40%を占める)のニーズを十分に満たすことができる。ラテンアメリカの対中輸出は名目ベースで激増している。2000~2003年にブラジルの輸出は 500%、アルゼンチンは 360%、チリは 240%、それぞれ増加した。製品の世界的な貿易国であるメキシコすら対中輸出はこの間に 1000%増加している。

中国はブラジルにとって第 2 の、かつ急成長している輸出市場となっているが、輸出は 5 品目の一次産品に集中している(ブラジルの対中輸出の 75%を占める)。大豆は、ブラジルにとってもアルゼンチンにとっても、中国に輸出されている主要な一次産品である。チリとペルーの場合、対中輸出の大半はたった 1 つの一次産品、すなわち銅に集中している。

一握りの一次産品に集中しているにもかかわらず、中国の旺盛な原材料需要はラテンアメリカにとって好材料となっている。2000~2005年に中国は世界原油需要の伸び全体の約 40%を占めていた。中国の原油需要の伸びは原油価格を押し上げるとともに、ベネズエラ、エクアドル、コロンビアなど原油輸出国の貿易黒字を増加させている。近年の中国の銅輸入の急増も銅価格の高騰につながるるとともに、チリとペルーの貿易黒字を押し上げ、両国は 2004 年と 2005 年に過去最高の貿易黒字を記録している。

中国はラテンアメリカにとって主要な貿易パートナーであるだけではない。向こう 10 年間に資本フローの面でも目に見える救いの手となる可能性が強い。中国は外国直接投資(FDI)でラテンアメリカと競合しているとは思われない。中国はここ何年かラテンアメリカ全体に匹敵する FDI を呼び込んだが、ラテンアメリカ諸国がそのしわ寄せを受けているとは思われない。アリシア・ガルシア・ヘレロとダニエル・サンタバルバラが第 5 章で強調しているように、分析期間(1984~2001年)にラテンアメリカ向け FDI の中国への代替は生じていない。ただし、もっと最近(1995~2001年)の影響を国別に見ると、中国向け FDI がこの地域の一部の国(メキシコとコロンビア)への FDI を阻害しているように思われるなど、様相は少し違って来る。

実際、ラテンアメリカは、中国との FDI 獲得競争の強まりを恐れているのではなく、ここでも中国の権益を引き付けようとしているのかもしれない。この地域は一次産品の賦存が豊富なので、不足を避けられるよう食料とエネルギーの輸入を確保したいという中国のニーズ・戦略とシナジー効果を持てる。中国の投資は、アグリビジネスや一次産品関連の産業ばかりでなく、インフラ、道路、港湾などにも向かわせることができるし、また向かうようになるだろう。

2003年、中国の対外投資は(依然として低水準であるものの)1年で2倍以上に伸びたが、ラテンアメリカは中国の世界全体の FDI の 3 分の 1 を占めた。翌年には、中国の FDI の約 50%はラテンアメリカ向けとなった(過去最高の 70 億ドルに達した 2005 年の海外投資の 16%)。食料と一次産品を確保する必要から、中国は戦略的な国際的パートナーシップを通じて FDI を増やしている。中国はメキシコですでにメーカーを設立しており、アルゼンチンでも鉄道建設やアグリビジネス関連プロジェクトの権益を拡大している。中国企業による最大の海外投資案件のいくつかもすでにラテンアメリカで行われている(ブラジルの鉄鋼産業)。2004年、中国の国営石油会社シノペック(中国石油化工)はブラジルの南部と北東部をつなぐガスパイプラインを建設するペトロプラスとの合弁企業に 10 億ドルの投資を行った。中国が最近調印したその他の案件としては、世界有数の鉱山会社リオ・ドセ(CVRD)と上海の有名な宝山鉄鋼との鉄鉱石輸出契約も挙げられる。2005年には、チリの手銅会社コデルコが中国の五鉱集団(ミンメタル)と歴史的な輸出契約を締結した。

中国企業のみがラテンアメリカへの進出に関心を持っているのではない。例えばブラジル企業も中国への進出を狙っている。最も積極的に動いているのはジェット機メーカーのエンブラエルや、ブラジルにとどまらず南米でも最大のバスメーカーであるマルコポーロなどである。中国に進出しているブラジル企業は15社しかないが、カナダ企業はすでに4,000社も中国に進出している。

ラテンアメリカが中国やアジアに目を向けているのは明らかであるが、これは相互的な動きである（サンティエソ、2005a）。ラテンアメリカが歴史上初めて世界の主要な成長エンジンの1つからではなく3つから恩恵を受けられるという意味で、これは大きな転換である。1980年代までこの地域の主要な貿易パートナーは米国であった。1990年代には欧州による活発な投資が第2の成長エンジンとなった。今日、21世紀を迎えたこの新たな10年間には中国そして全アジアの興隆がラテンアメリカにとって第3の成長エンジンとなっている。一次産品に対するアジアの需要はラテンアメリカに比類のない歴史的チャンスをもたらしているが、この地域は単に波に乗る以上のことをしなければならないだろう。

この波に乗って中国の興隆から思いがけない利益を受けているラテンアメリカの国々にとっても、主要な政策課題はこの予想外のチャンスをフルに活用するだけでなく、とりわけ原材料の供給地に追いやられるリスクを避け、今後も世界的な生産のバリューチェーンに統合され続けることであろう。

中国のラテンアメリカに対する貿易面や金融面の影響を超えて、「認識的な影響」とでも呼べるようなもっと微妙な影響もあるかもしれない。中国はサクセスストーリーの象徴として、先進国でも開発途上国でも開発経済学者、政策当局、企業マネジャーの注目を集めている。中国のサクセスストーリーが際立ったものだとなれば、それは、この開発への行路が、国に後押しされて改革と生産的再構築を促進する市場に優しい政策を適用している中国の政策当局の見事な経済的実用主義を如実に示しているからである。アジアのこれまでの経験、特に日本、シンガポール、マレーシアの経験に似ているとしても、この資本主義的なブリコラージュ（寄せ集めで必要なものを作る）は他に例がない。依然として異なっているのは、中国の場合は共産党主導で行われている、ということである。

実用主義の政治経済学は、今日では何年か前より世界的によく見られるようになってきている。マクロのパラダイムや教科書モデルを一切参照せず、中国は独自の行路で前進した。北京に帰り、何をすべきか、何をすべきでないかを助言する「シカゴかぶれ」や「マネー博士」はいなかった。ラテンアメリカでもこの実用主義はチリ、メキシコ、ブラジルなどの国でうまく機能している（サンティエソ、2006）。結局、これらの経験は、それぞれ非常に異なっており、比類のないものではあるが、開発の箱を開ける呪文や魔法の鍵など存在しないことを示している。

© OECD 2007

**本要約は OECD の公式翻訳ではありません。**

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

**多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を翻訳したものです。**

OECD オンラインブックショップから無料で入手できます。 [www.oecd.org/bookshop/](http://www.oecd.org/bookshop/)

お問い合わせは OECD 広報局著作権・翻訳部にお願いいたします。

[rights@oecd.org](mailto:rights@oecd.org)

fax: +33 (0)1 45 24 99 30

OECD Rights and Translation unit (PAC)  
2 rue André-Pascal, 75116  
Paris, France

Visit our website [www.oecd.org/rights/](http://www.oecd.org/rights/)

